

参考資料（①インテークから現在までの面接を振り返る）

（１）持続的支援：どんな内容の話でも受け止め（受容）、主訴に耳を傾け（傾聴）、生活するため

の助言や必要な支援を継続して行うことでクライアントの不安を軽減。

（２）直接的支持：問題解決のための方法や行動についてワーカー側から具体的に提案。

（３）カタルシス（浄化法）：クライアントの抱える感情を吐き出すことによって、情緒的な混乱

を落ち着けていただき、自らの感情や考えを語れるよう促す。

（４）現在の状況の性質と、状況に対するクライアントの応答についての考察及び状況と応答の交互作用：面接を通じ、クライアントがどんな状況に置かれているのか、それがどのような行動パターンに起因するのかを考察し、クライエが自らを取り巻く周囲の環境と、どのようにかかわり合っているのかについて考えることを促す。個人と環境の交互作用についての理解をクライアントとともに掘り下げていく作業。

（５）応答の型や傾向の力学についての考察：クワーカーのかかわりによりクライアントは支えられていると感じ、ワーカーの力を借りながら自らの置かれている状況を見直していく過程をたどる。

（６）応答の型のなかの発生的・発達の要因についての考察：生育歴を振り返り、クライアント自らの行動に生育歴が影響されていることをクライアントが気づけるように支援していく。